

釜石の被災木活用

盛岡市の県立図書館は、東日本大震災で被害を受けた釜石地区の木材を活用し、本の案内などを行う「コンシェルジュ」専用のデスクを新たに設置した。復興支援とサービス向上を兼ねた同館独自の取り組み。

同館では2012年4月から震災関連資料コーナーを設置し後世に伝える資料の収集活動を行っており、同館利用をサポートする女性のコンシェルジュが「震災風化を防ぐためにも被災地の木材を使ったデスクを設置してほしい」と提案。

これを受けた同館指定管理者の図書館流通センター（本社東京都）が、「森の貯金箱」復興住宅

「コンシェルジュ」デスクを新設

県立図書館

プロジェクトを活用して釜石地方森林組合の木材を利用し、県森林組合連合会にデザインを依頼した。

高さ約110センチ、幅約130センチ。コンシェルジュの中澤歩美さん(28)は「木の香りや温もりを感じることができ、利用者にも好評」と話す。

完成したデスクは津波の被害を受けた一部のスギを約10センチ四方に組み合わせたもので、大きさは

木材を提供した釜石地方森林組合の高橋幸男参事(48)は「震災風化を

防ぐという気持ちがある。合板工場に間伐材が滞っている状態なので使ってもらっただけでありがたい」と感謝する。

同館の菊池敏雄総括責任者(60)は「多くの人のつながりがあって完成したものなので、このデスクから人と本をつなげていきたい」とさらなるサービス向上に向け意欲を語った。



釜石地区の木材を利用して製作された県立図書館のコンシェルジュ専用デスク